好奇心を世界への翼に変えて

「はて、『ECC国際部』とは？」と、首をかしげながら向かった富谷高校の一室。制服姿の女子生徒が何やら楽しげに様々な国旗を手作り。聞けばこの日は万国共通の「結婚」をテーマに、言語や文化の違いでどのような表現の差があるかについてまとめる日だという。これまでも取材で多くの運動部や文化部などに足を運んできたが、これまた一段とユニークな部もあるものだと感心。感心。

部名の“ECC”とは、「English Communication Club」の略。つまり直訳すれば「英会話部国際部」と部が2つあることに…と、意味もなく揚げ足を取る。現在は、3年生2人、2年生8人、1年生1人の計11人が所属。男子禁制というわけではなく、同校は女子が6割で、男子は主に運動部に入る傾向が強いらしい。

富谷町内唯一の高校である同校では、県内の公立高校としては初めてのコース制を導入。普通科の人文、理数、国際の3コースを設置している。その特色が反映され、前身の「英語部」が誕生。現在の「ECC国際部」へと変わっていった。

これらの取り組みが評価され、本年度からはユネスコが認定する「ユネスコスクール」として承認を受けた。これにより、教員も生徒も一層、国際教育への熱を強めている。

英語は世界への入り口

その熱で今、最もホットなのがこの「ECC国際部」。早速、潜入を試みた訳だが、国旗作りの様子に謎は深まるばかり。顧問の八島先生に根掘り葉掘り聞けば、テーマに応じて英語で寸劇を行う「スキット甲子園」や「スピーチ甲子園」、県国際教育研究会の講習会への出席、日本語で国際的な体験を語る「日本語弁論」など、教室を飛び出しての活動も多いというのだから、その奥深さは計り知れない。

普段の部活動ではALTのジミー・イン先生(30)が英会話などを指導。イギリスのロンドン出身でもちろん英語はペラペラ(そりゃそうだ母国語だもの)。この日のようなワークショップ形式の活動の際は、決して無理強いすることなく、優しく生徒を見守り、時折英語で会話。この何気ない部活の一場面が彼女たちの国際理解への一歩となっている。

部長の丹野穂野花さんは同校の国際コースへの入学を望み、塩竈市から進学。幼少からテコンドーや英会話を習うという旺盛な好奇心のその勢いで入部。ECCの経験が「漠然としていた将来を、国際関係学を学びたいという強い意志に変えてくれた」と瞳を輝かす。

同校では選択で中国語を学ぶこともでき、同部では中国人の親を持つジミー先生からの直接指導も受けられる。「普通に生活していたら関わることのできない異文化交流ができる」。そう魅力を語る吉田彩乃さん。同部の活動で気付いたことは「外国語は英語だけじゃない！」。だからこそ今後の活動では「アジアやアフリカ地域への理解を深める活動をしたい」と見据える。

広がる視野と仲間の輪

また、複数の部活動の掛け持ちが可能で、浅野伶奈さんと吉澤法華さんは「JRC同好会」にも籍を置く。「世界に興味があったから」―。他の部活動もやりたいけれど、世界にも目を向けたいという気持ちを受け止める度量と月水金曜日という適度な活動頻度が生徒の学びを支える。

「外国の人との会話に抵抗がなくなりました」「以前より、躊躇することなく英語が話せるようになりました」。橋浦和さんと伊藤碧弥美さんはここでの成長に顔をほころばせる。もちろん、バリバリに勉強だけをしているわけではなく、戸井田若菜さんは「にぎやかで仲がいいんです」とする部活の中で「前よりも明るい性格になったような気がします」と内面にまで変化を感じている。

近藤由紀さんは「将来、留学や英語を用いる仕事に就きたいから」、藤田梨佳子さんも「外国のことに興味があったから」と入部して今は当時よりも「英語が好きになった」と胸を張る。とはいえ、英語が得意で入ってきた人ばかりではなく、矢萩理沙さんは「英語を上達させたい」と門を叩き、活動の中で今では「英語を通して視野を広げたい」と夢にあふれる。

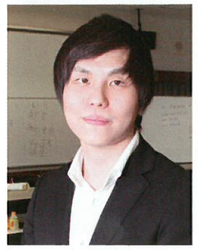
本年度の新入部員は武藤百花さん1人だが、これから徐々に増えていくのがECCの特徴だ。武藤さんは「学年を問わず仲がいい」という輪の中にすでに溶け込んでいる。これから訪れるであろう苦労にも「明るく楽しい部活であり続けて、将来は英語を使った仕事や国際関係の仕事に就きたい」とその胸を希望に膨らませる。

「ECC国際部」が目指すは人間相互理解。放課後の教室の中には高校生たちの好奇心が渦巻き、世界へと羽ばたく翼に風を送る。そこで部員たちは手を取り合い、友情を深め、ともに世界への扉を開いている。

部長

丹野穂野花（たんのほのか） さん（17）

国際コースに入学したからには3年間、様々なことに興味を持って教養を深めようと入部しました。他コースの部員もいて、個性の強いみんなとの活動はとても面白いです。本年度はこれまで以上に積極的に取り組み、「ECC国際部」に入って良かったと思える部活にしたいです。



ALT

Jimmy Yin（ジミー・イン）先生（30）

マンガやアニメといった日本文化に関心があり来日しました。子どもたちには教科書や授業だけでは身に付かない日常的な英語を学んで、日本に留まらないグローバルな視点を持ってほしいと思っています。私自身もたくさんの国に行き、多くの人々や文化に触れていきたいです。

部員たちは主体的に世界とのつながりを持つことで、自分自身の視野を広げている。様々な調査について、まとめた後はみんなと共有。世界の不思議に瞳はキラリ☆